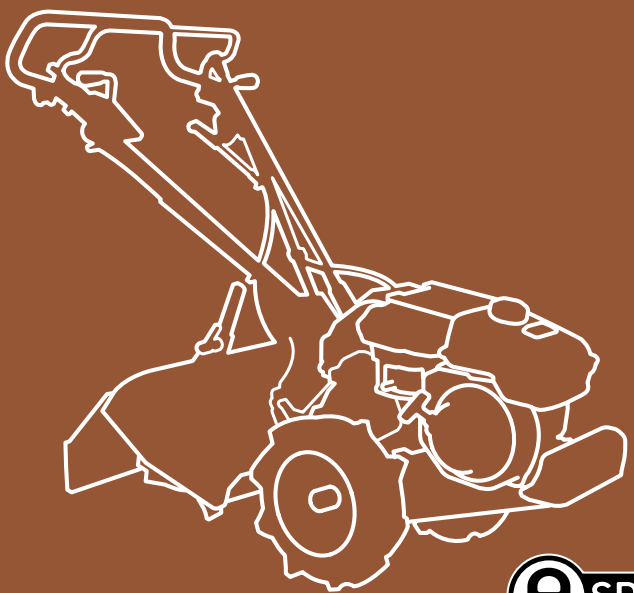
HONDA
汎 用 製 品

ミニ耕うん機

FU755

取扱説明書



ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

一般公道での走行はできません。
（本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。）
夜間作業はできません。
（本機は作業灯が装備されていません。）
水田での使用はできません。
（本機は耐泥水構造になっていません。）

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

本書はFU755 Lタイプを中心に説明しています。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ・・・・・4
安全ラベル・・・・・

運転操作のしかた・・・

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、きちんと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が開いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分に落とし、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。
  - ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

警告

- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - ・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、十分な強度のアユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- ロータリ爪は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように点火プラグキャップをエンジンが冷えてから取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
  - ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。
  - ・駐車ブレーキを“ロック”(ON)したまま走行しないでください。ブレーキが故障する原因となり、事故につながるおそれがあります。
  - ・ブレーキから異臭がしたら、必ずエンジンを停止させてから販売店にお申しつけください。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータリ作業時は爪の回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音器)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

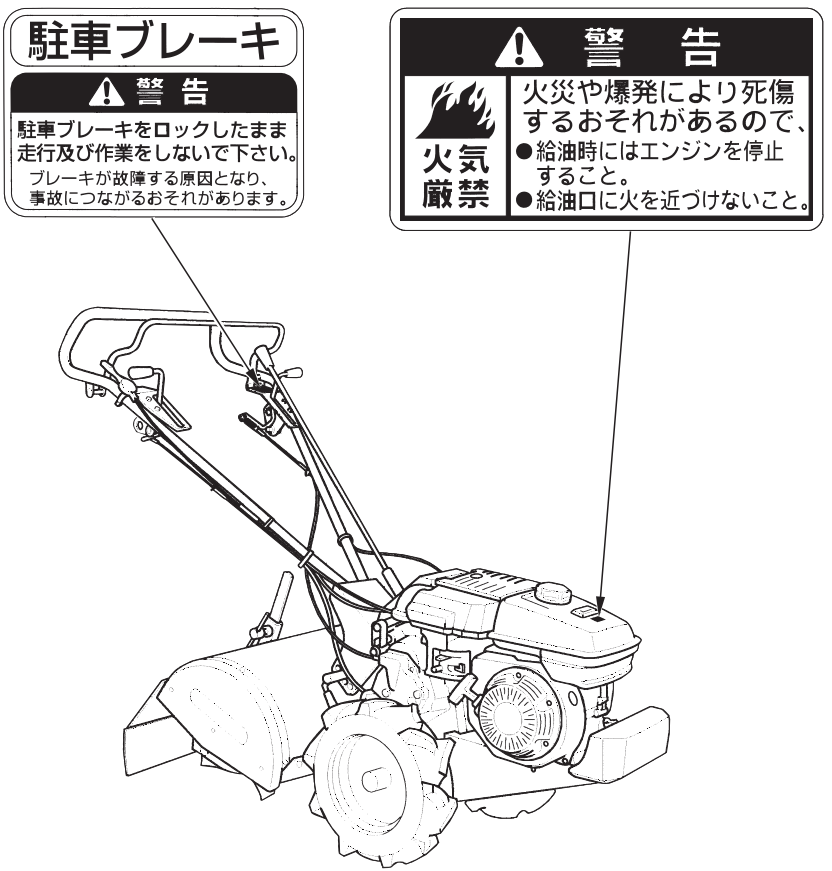
警告

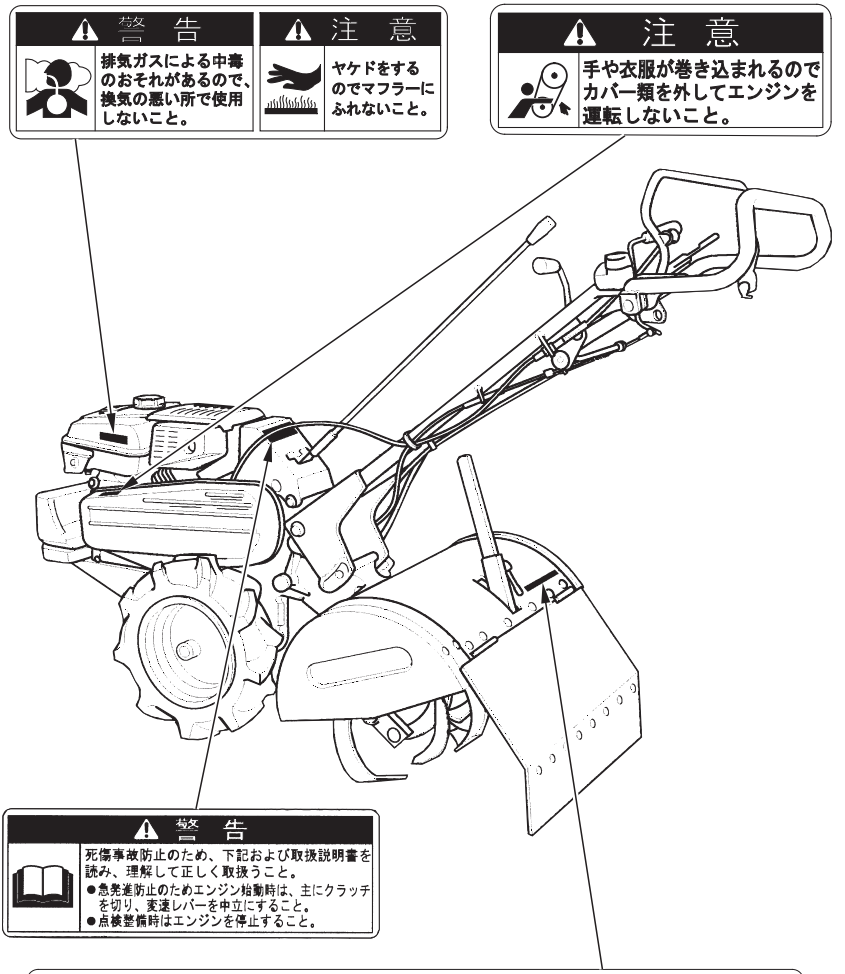
●積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
  - ・使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのあるタイヤ幅以上の幅があるものを使用してください。
  - ・アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さのものを使用してください。(目安として荷台の高さの 4 倍以上の長さ)
  - ・アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
  - ・ロータ装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
  - ・積み込みは前進で、降ろすときは後進で行ってください。
  - ・デフロックレバーをかならず“直進”にしてください。
  - ・アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
  - ・本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを絶対に放さないでください。
  - ・積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れ、デフロックレバーを“直進”の位置にし、駐車ブレーキレバーを“ロック”の位置にして本機を動かないようにしてください。
  - ・燃料コックは“閉”にして運搬してください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。




⚠ 警 告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
⚠ 注 意
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。
⚠ 注 意
手や衣服が巻き込まれるのでカバー類を外してエンジンを運転しないこと。
⚠ 警 告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
●急発進防止のためエンジン始動時は、主にクラッチを切り、変速レバーを中立にすること。
●点検整備時はエンジンを停止すること。
⚠ 警 告
本機の積み降ろしや坂道の移動、駐車ブレーキ使用時に本機が旋回し、転落などでケガをするおそれがあるので、デフロックレバーを「直進」の位置にすること。
⚠ 危 険
回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。
カバー類を外して運転しないこと。

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



※ フレーム号機および銘板の表示
位置は12頁をご覧ください。
(参考:左の銘板はFU755-Lタイプの物です。)

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

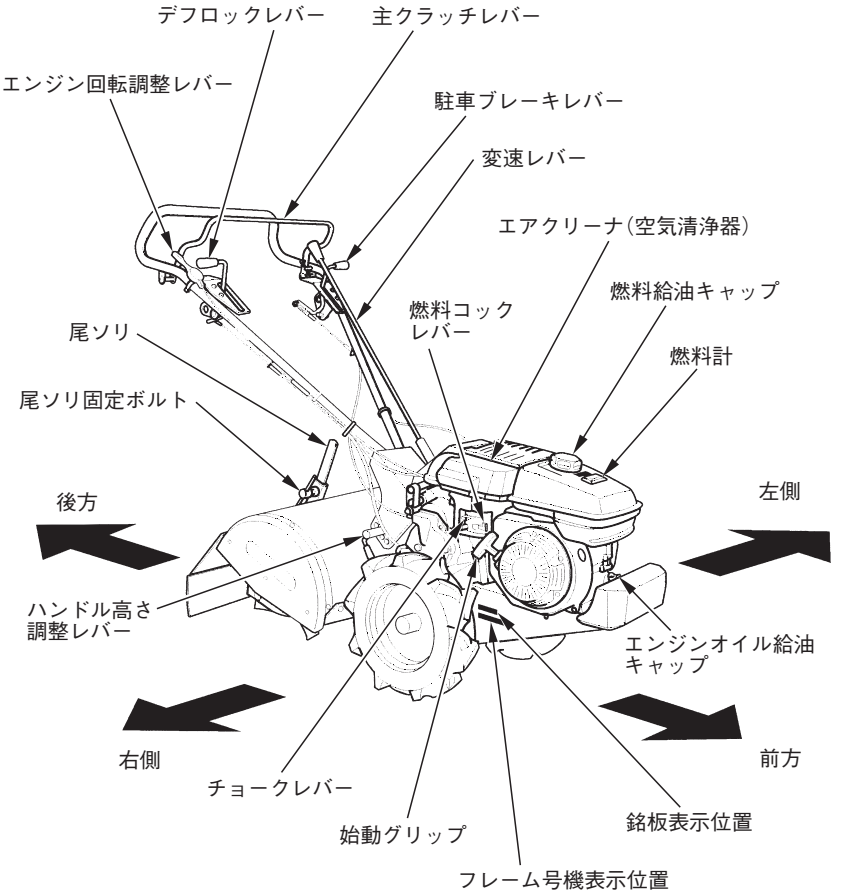
安全鑑定

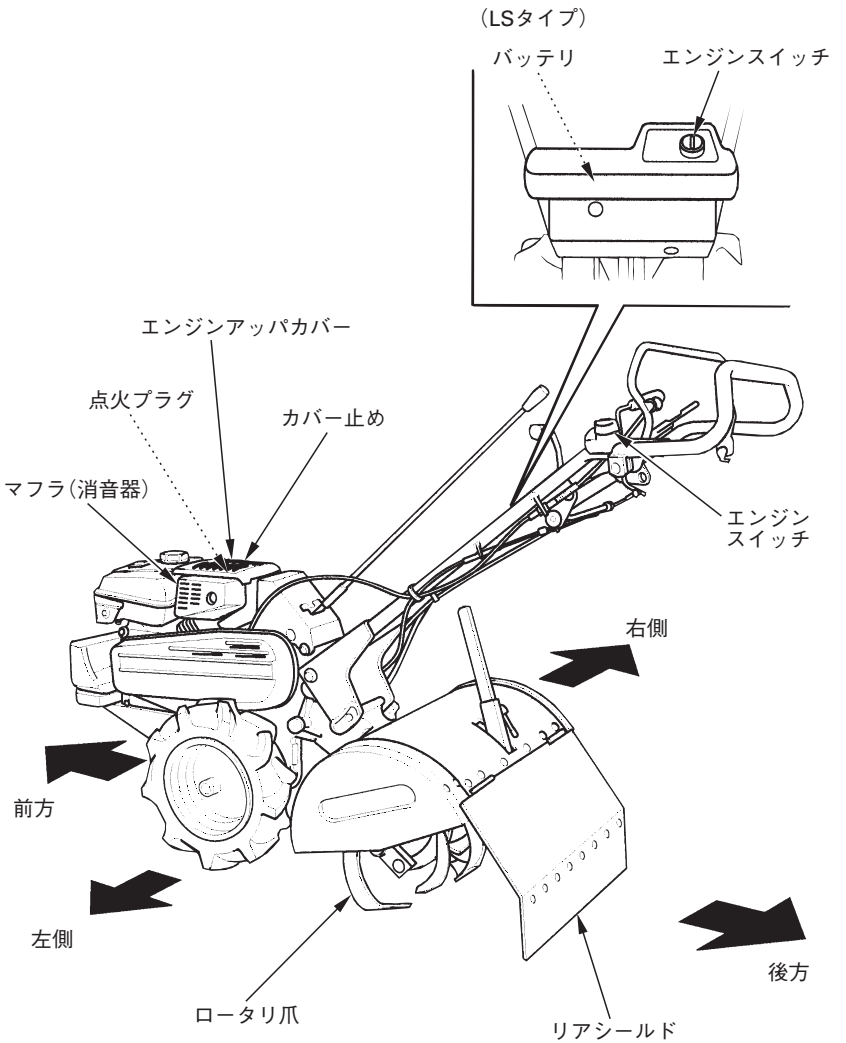
安全鑑定型式名
ホンダFU755

安全鑑定証票



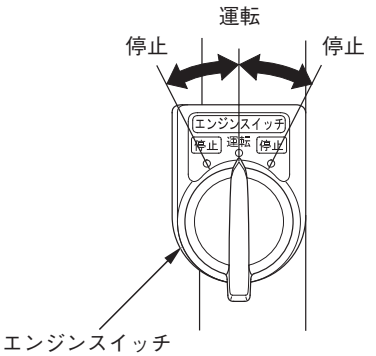
各部の名称と取扱いをおぼえましょう



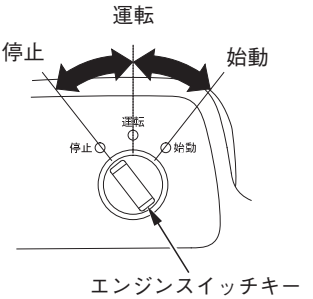

（LSタイプ）
バッテリ
エンジンスイッチ
エンジンアッパカバー
点火プラグ
カバー止め
マフラ（消音器）
エンジン
スイッチ
右側
前方
左側
後方
ロータリ爪
リアシールド

エンジンスイッチ

スイッチは、エンジンの始動、運転、停止をするときに操作します。
LSタイプはエンジンスイッチキーで操作します。



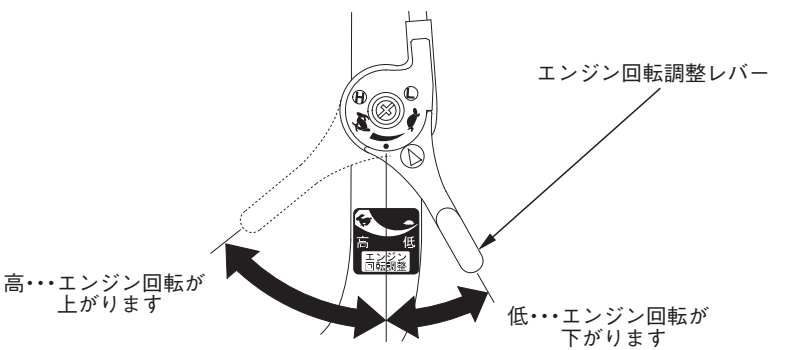
（Lタイプ）



（LSタイプ）

エンジン回転調整レバー

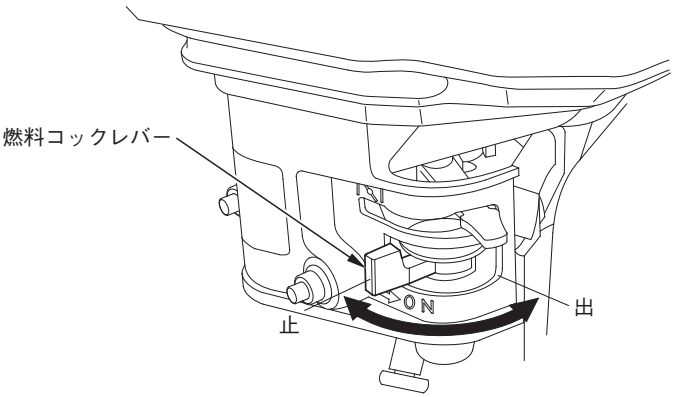
エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



●始動･･･エンジンを始動するときの位置です

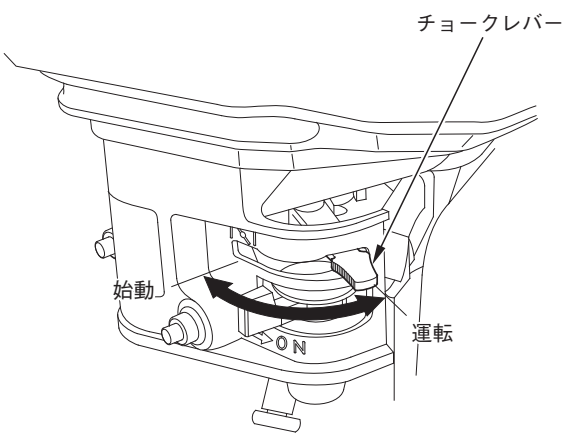
燃料コックレバー

燃料コックレバーは、タンクの燃料を出したり止めたりするときに操作します。



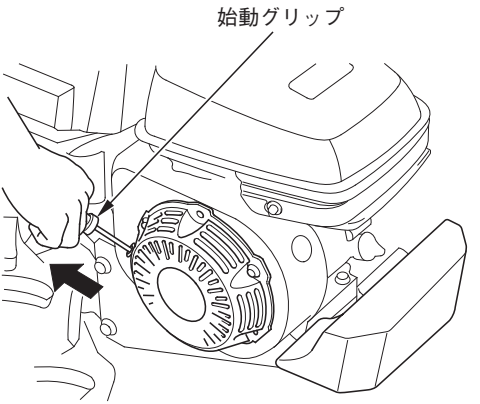
チョークレバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



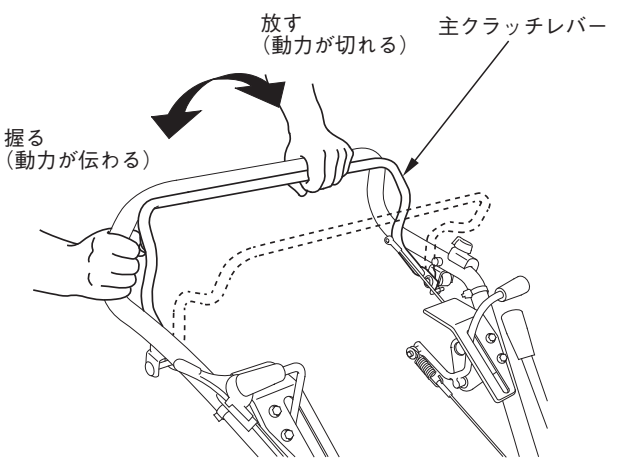
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



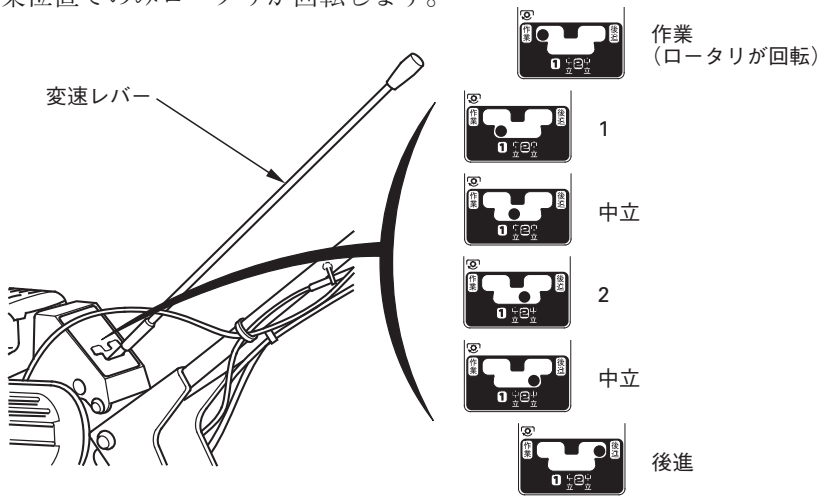
主クラッチレバー

主クラッチは、車輪およびロータリへの動力を断続する装置です。
主クラッチレバーを握ると動力が伝わり、放すと動力が切れます。



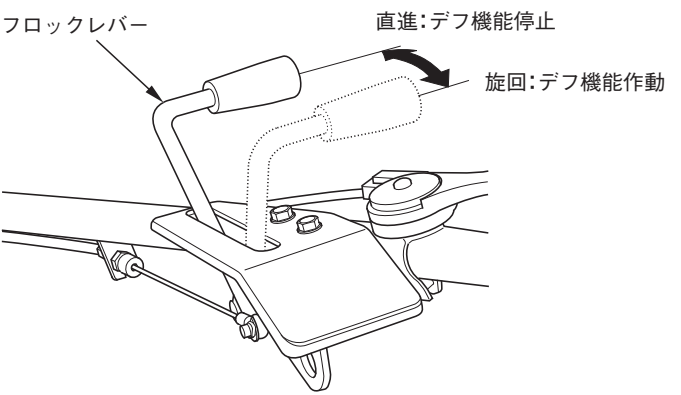
変速レバー

本機の速度を変えるときに操作します。
作業位置でのみロータリが回転します。



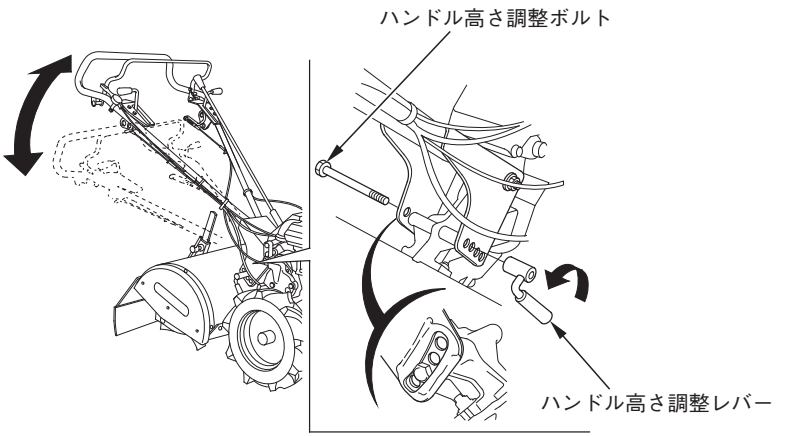
デフロックレバー

デフ機能を作動、停止するレバーです。
“旋回”:デフ機能が働き、旋回性が向上します。
“直進”:デフ機能がロックされ、直進性が向上します。



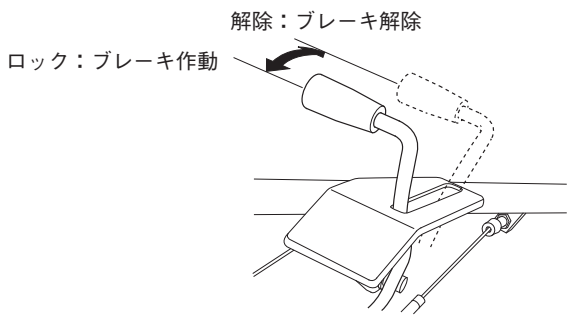
ハンドル高さ調整レバー

ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるレバーです。
4段階に調整できます。(調整は28頁参照)



駐車ブレーキレバー

本機を駐車するときに使用します。
“ロック”の位置にするとブレーキが効きます。
“解除”の位置にするとブレーキが解除されます。

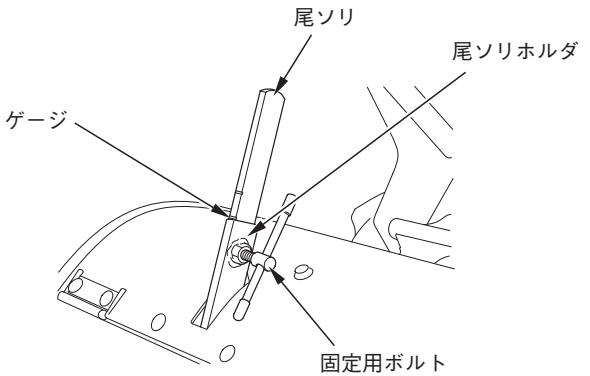


⚠警告

駐車ブレーキを“ロック”(ON)したまま走行しないでください。ブレーキが故障する原因となり、事故につながるおそれがあります。

尾ソリ

固定用ボルトをゆるめ尾ソリを上下に移動することによって耕うん深さ(耕深)を調整します。(調整は30頁参照)
尾ソリを引き上げる…耕深が深くなる
尾ソリを押し下げる…耕深が浅くなる



作業前に点検・調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- ●本機のまわり……燃料の量(21～23頁参照)、オイルの量(24頁参照)は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
  リアシールドに破れ、ちぎれはありませんか。
- ●レバーの作動……レバーの遊び量(59～61頁参照)は規定どおりですか。
  引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
  主クラッチレバーのストッパゴム(31頁参照)は外れていませんか。(LSタイプ)
- ●タイヤの空気圧……タイヤの空気圧は適正ですか。(27頁参照)
- ●各部の締付け……ハンドル高さ調整レバーにゆるみ、がたはないですか。
  ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- ●配線、ケーブル類……被覆のやぶれ、切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- ●エンジンの始動、停止…エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は32～41頁参照)
  エンジンスイッチで確実に停止しますか。
  (停止手順は49～51頁参照)

●その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

燃料の点検

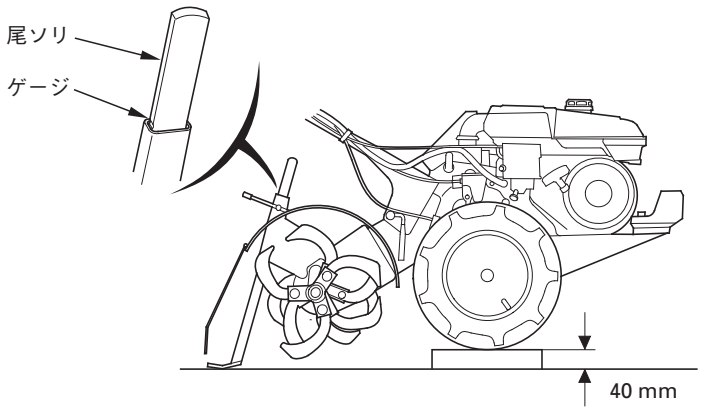
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

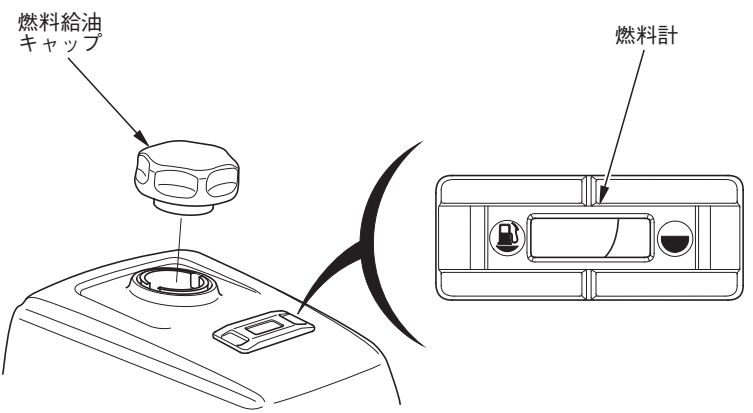
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。
  燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

左右のタイヤと地面の間に40 mmの板などを入れて本機を持ち上げます。尾ソリのゲージを最上位置にし、尾ソリを地面に接地させて本機を水平にします。



水平にしたら、燃料計で燃料の量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。



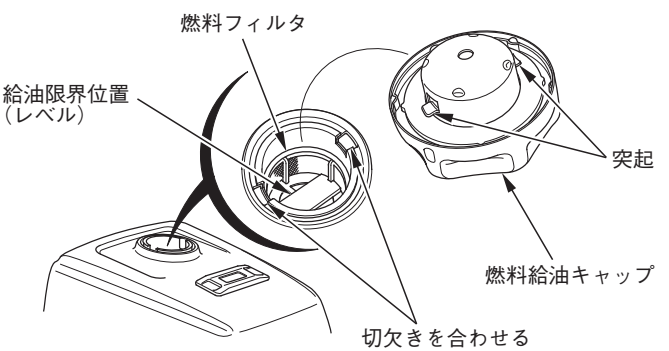
補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。
- 燃料フィルタと燃料タンクの切欠きが合っているか確認してください。燃料給油キャップの突起を燃料タンクの切欠きに合わせてはめ込み、右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。

取扱いのポイント

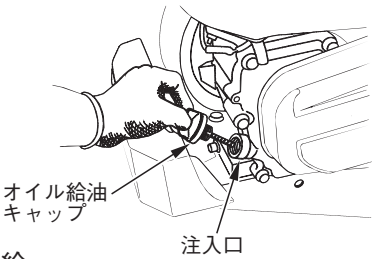
- ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。本機に混合ガソリンを使用すると始動不良、出力低下、燃料系のつまりの原因となります。
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

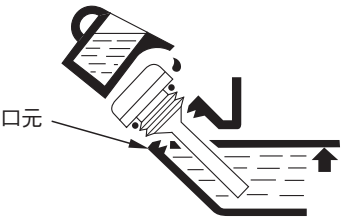


エンジンオイルの点検

点検

エンジンを水平(水平の方法は22頁参照)にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

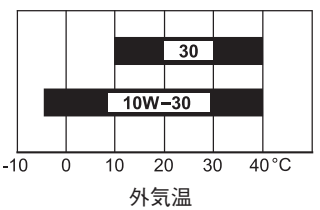




補給

- 少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換は53、54頁参照)
  補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル
  Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)、またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



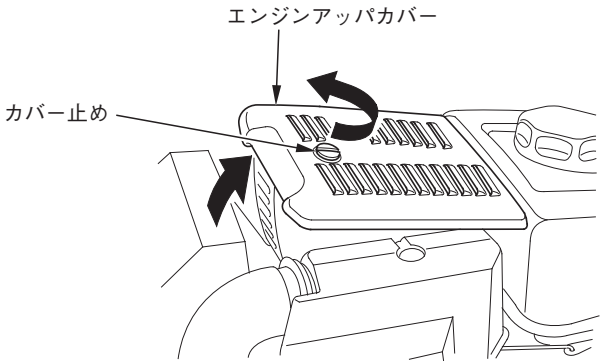
エンジンオイル量： 0.6 L

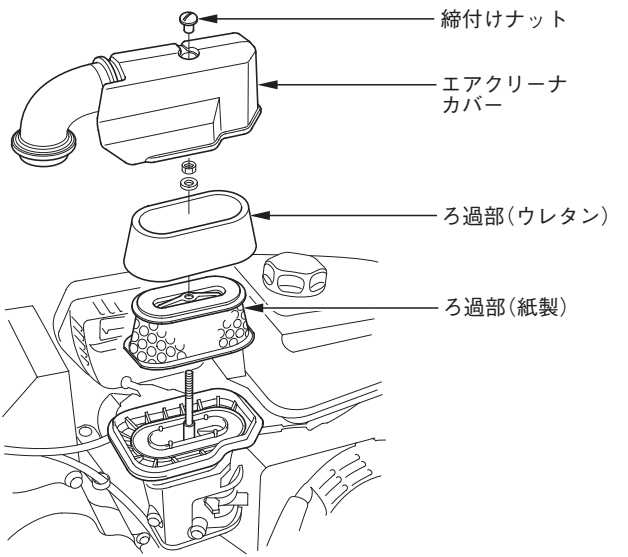
取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナ(空気清浄器)の点検

ドライバ等を使ってカバー止めを解除し、エンジンアッパカバーを開きます。エアクリーナカバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。
汚れている場合は清掃してください。(清掃は55頁参照)

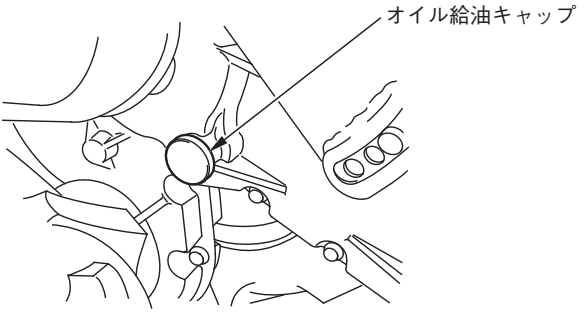




変速機オイルの点検

点検

エンジンを水平(水平の方法は22頁参照)にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。少ない場合は補給してください。

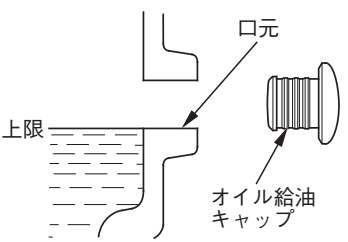


補給

《推奨オイル》 Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)、またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

変速機オイル容量：2.4 L

- オイル給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- 補給後、キャップは完全に締付けてください。



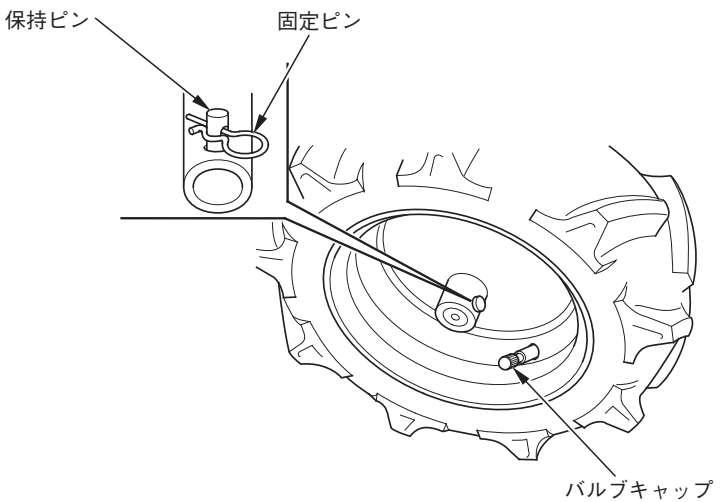
取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

タイヤ空気圧の点検

点検
空気圧が正規か確認してください。空気圧が高過ぎるとけん引力が不足し、低過ぎるとタイヤの寿命を短かくします。
空気圧が正規でない場合は必ず正規の空気圧にしてください。

調整
バルブキャップを取外し、タイヤバルブより空気を注入、または抜いて調整します。
タイヤサイズ：3.50－7－2PR
標準空気圧：118 kPa (1.2 kgf/cm^2)



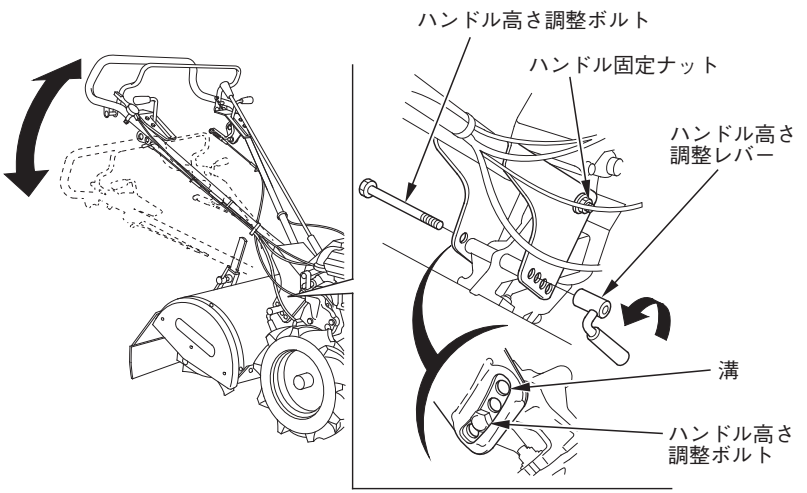
車輪取付けピンの点検
保持ピン、固定ピンが確実に取付けられているか点検します。

ハンドル高さの調整

ハンドル締付けボルトを外し使い易い高さに合わせて固定してください。ハンドル高さを、作業内容や運転者の身長に合わせ4段階に調整できます。

調整のしかた

1. ハンドル固定ナットをゆるめます。
2. ハンドル高さ調整レバーを外し、調整ボルトを外します。
3. ハンドルの高さを変え、任意の穴位置で調整ボルトを差込み、高さ調整レバーを締付けます。
   - ハンドル高さ調整ボルトが確実にハンドルの溝に入っていることを確認してから、ハンドル高さ調整レバーを締付けてください。
4. ハンドル固定ナットを確実に締付けます。



取扱いのポイント

調整後は調整レバーを十分に締付けてください。

ロータリ取付部の締付け点検

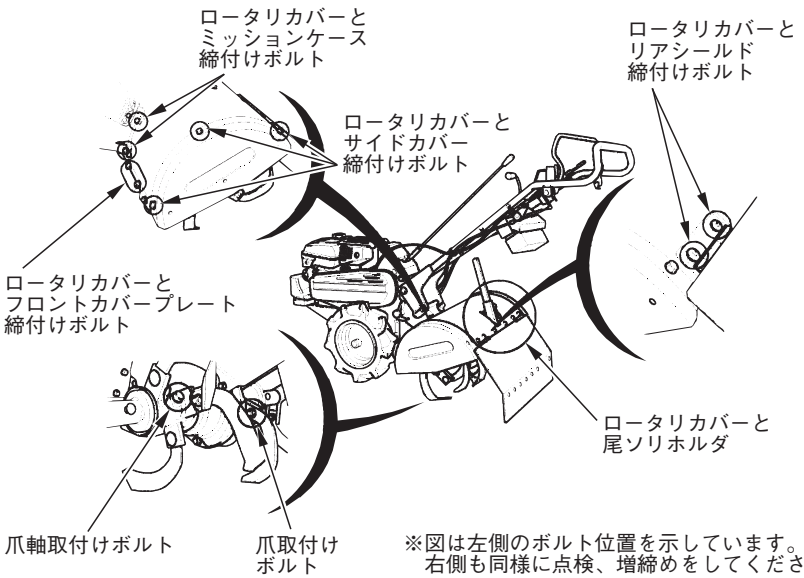
⚠注意

- 点検は平坦な場所でエンジンを停止して行ってください。
- ロータリ部の点検、増締めは厚手の手袋を着用して行ってください。

締付け箇所のゆるみを点検します。ゆるみがあれば増締めをしてください。

締付け箇所

- ロータリカバーとミッションケース締付けボルト、ナット
- ロータリカバーとサイドカバー締付けボルト、ナット
- ロータリカバーとリアシールド締付けボルト、ナット
- ロータリカバーと尾ソリホルダ
- ロータリカバーとフロントカバープレート
- 爪軸取付けボルト
- 爪取付けボルト



※図は左側のボルト位置を示しています。
右側も同様に点検、増締めをしてください。

耕うん深さの調整

耕うん深さは固定用ボルトをゆるめ尾ソリを上下に移動して調整します。

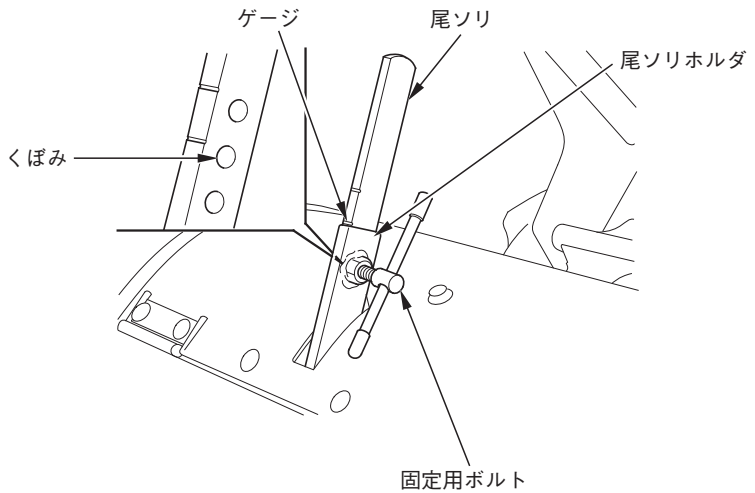
⚠注意

調整は平坦な場所でエンジンを停止して行ってください。

調整のしかた

尾ソリのゲージとくぼみを目安に耕深調整を行います。尾ソリホルダの上端とゲージを合わせて、固定用ボルトを締付けてください。
尾ソリを引き上げる…耕深が深くなる
尾ソリを押し下げる…耕深が浅くなる

- 土が柔らかくて、ロータリが潜ってしまうときには、尾ソリを押し下げてください。または土が硬いときにも、尾ソリを押し下げて、耕深を浅くしてください。



バッテリ（LSタイプ）

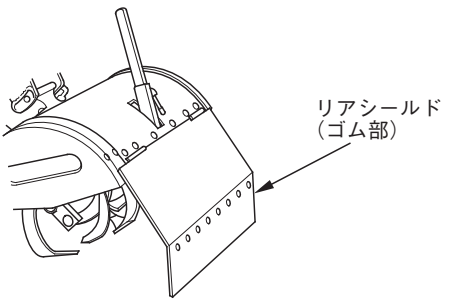
このバッテリは密閉式です。液洩れや補水の心配がないメンテナンス不要バッテリです。

⚠注意

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は補充電を行ってください。保管中、6ヶ月に一度補充電を行ってください。（補充電の方法は71頁参照）

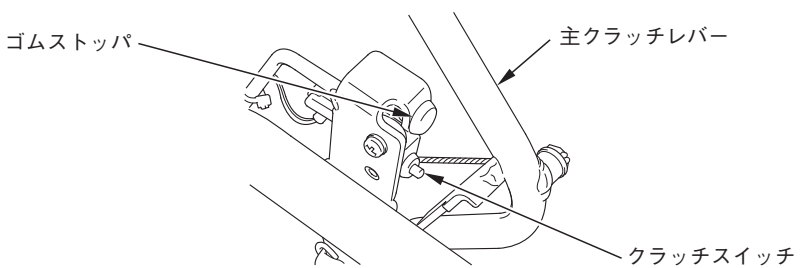
リアシールド

リアシールド（ゴム部）に破れ、ちぎれが発生した場合、十分な防護ができないおそれがあります。販売店へ相談し、新品と交換してください。



主クラッチレバー（LSタイプ）

主クラッチレバーのゴムストッパが外れたままで使用すると、クラッチスイッチが故障するおそれがあります。販売店へ相談し、新品のゴムストッパを取付けてください。



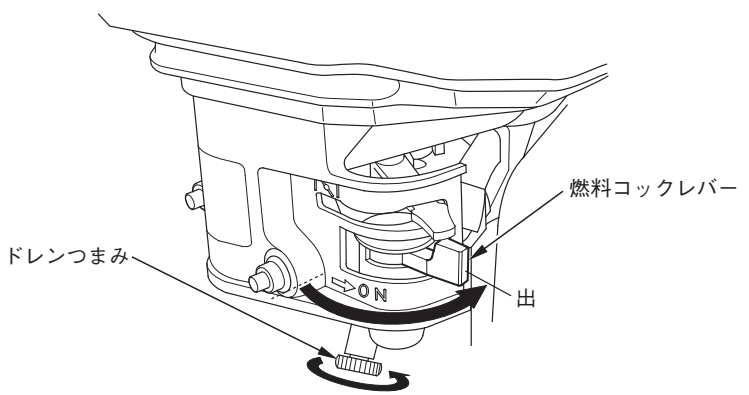
エンジンのかけかた

⚠警告

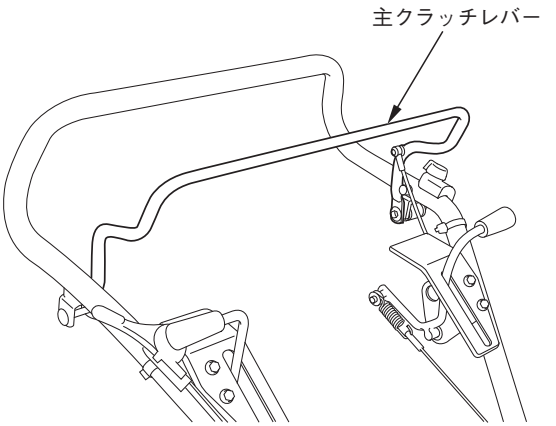
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチレバーが“切”、変速レバーが“中立”になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

リコイルスタータによるかけかた

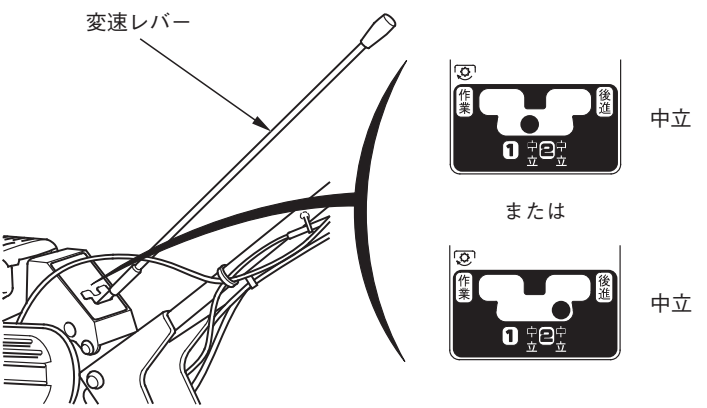
1. 燃料コックレバーを“出”の位置にします。ドレンつまみが確実に締まっているか確認してください。



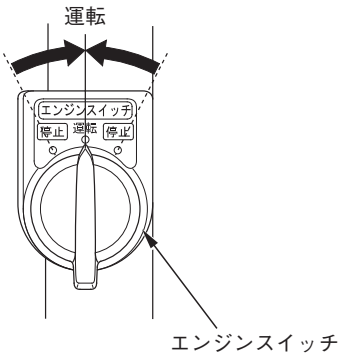
2. 主クラッチレバーが“切”になっていることを確認します。



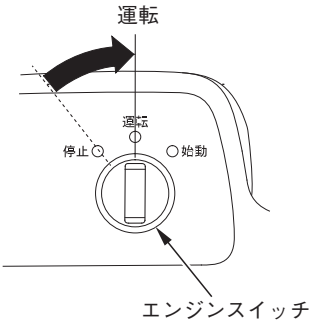
3. 変速レバーが“中立”になっていることを確認します。



4. エンジンスイッチを**“運転”**の位置にします。

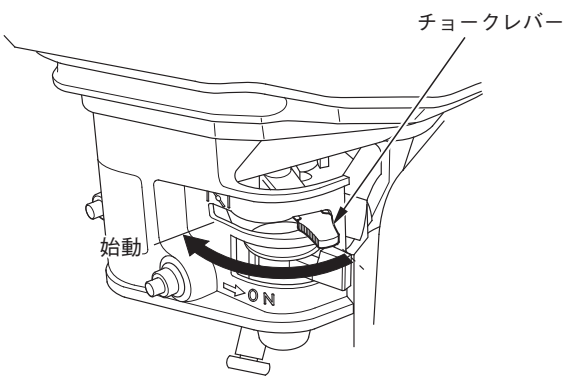


（Lタイプ）

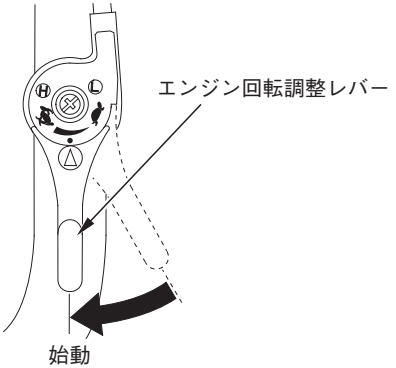


（LSタイプ）

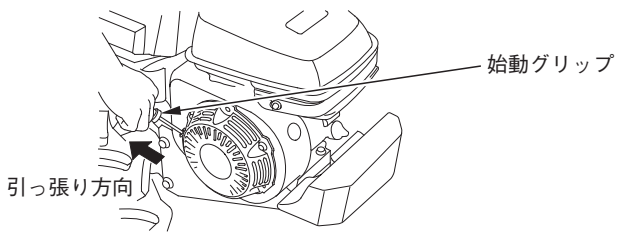
5. 寒いときやエンジンがかかりにくいときには、チョークレバーを**“始動”**の位置にします。



6. エンジン回転調整レバーを**“始動”**の位置に合わせます。



7. 始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。
次に矢印の方向に強く引っ張ります。
始動グリップは手を添えて静かに戻してください。



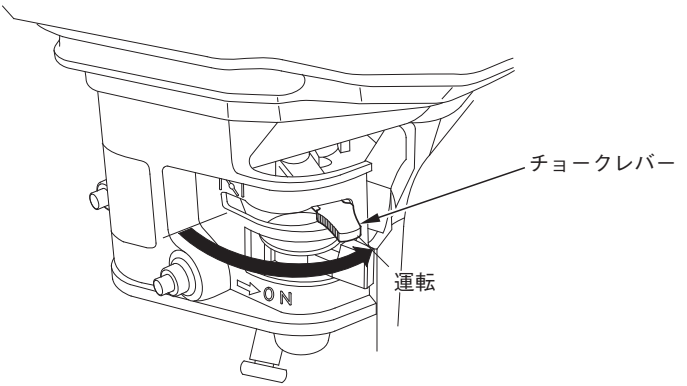
⚠注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

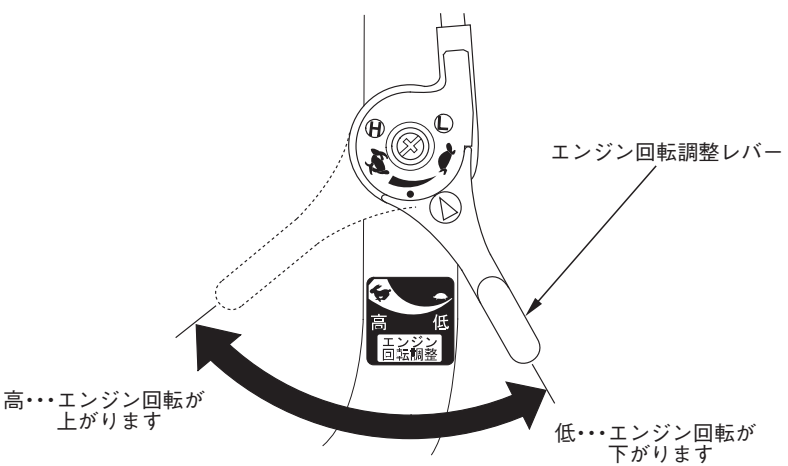
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

8. エンジンが始動します。
9. 2 ～ 3 分間暖機運転を行います。チョークレバーを引いたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に**“運転”**の方向に戻します。

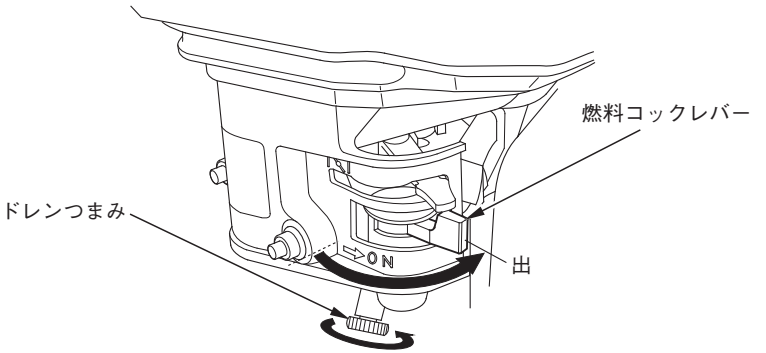


10.エンジン回転調整レバーを調整して、適切なエンジン回転にします。

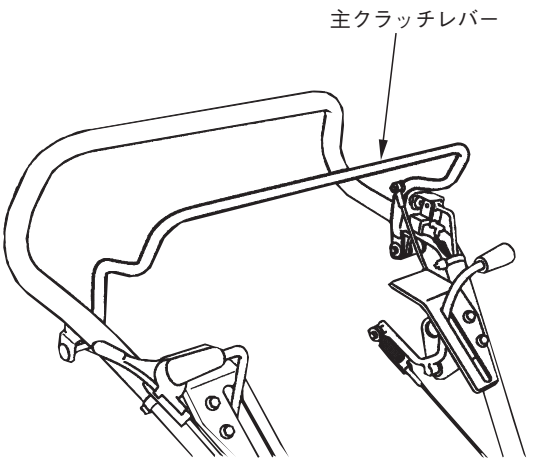


セルフスタータによるかけかた（LSタイプ）

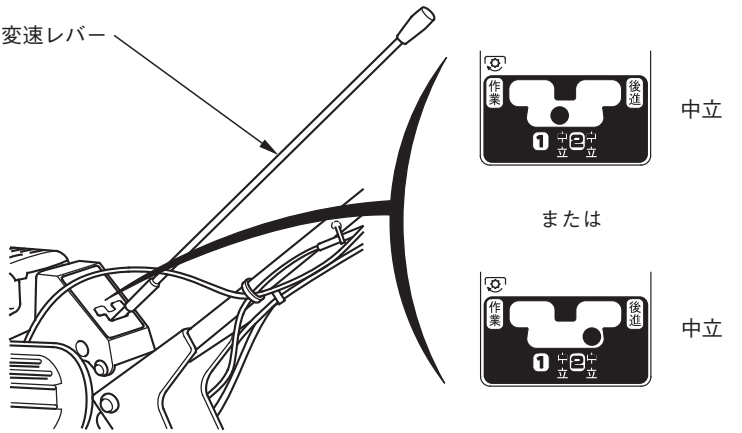
1. 燃料コックレバーを“出”にします。ドレンつまみが確実に締まっているか確認してください。



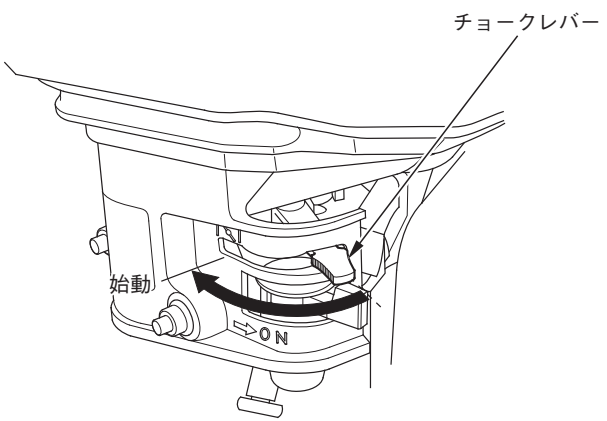
2. 主クラッチレバーが“切”になっていることを確認します。



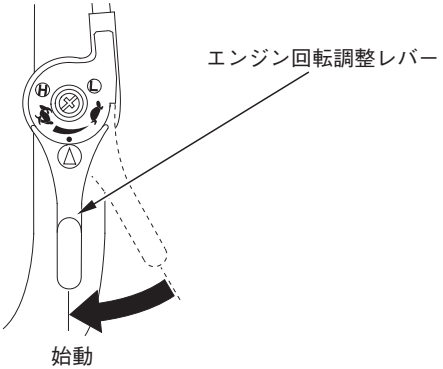
3. 変速レバーが**“中立”**になっていることを確認します。



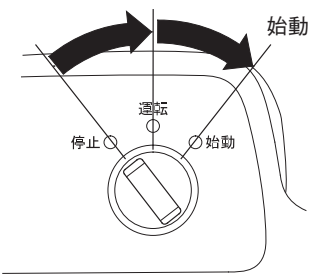
4. 寒いときやエンジンがかかりにくいときには、チョークレバーを**“始動”**の位置にします。



5. エンジン回転調整レバーを“始動”の位置に合わせます。



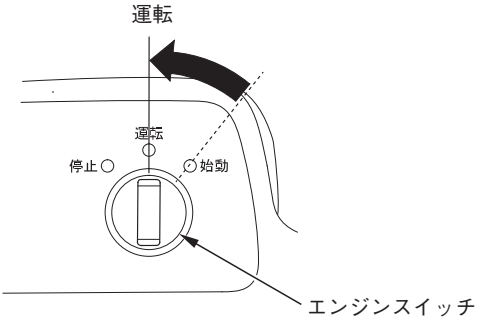
6. エンジンスイッチキーを差込み、“始動”の位置まで回し、セルフスタータモータを回し、エンジンを始動します。



取扱いのポイント

- スタータモータは大電流を消費しますので５秒以上の連続使用は避けてください。５秒以内で始動しない場合は、いったんスイッチを停止にして10秒以上休んでから再び始動してください。
- エンジン始動時、主クラッチレバーが“切”の位置でないとエンジンが始動しない機構になっています。
- −5°C以下の低温時にはセルフスタータによる始動ができない場合があります。この場合はリコイルスタータで始動してください。

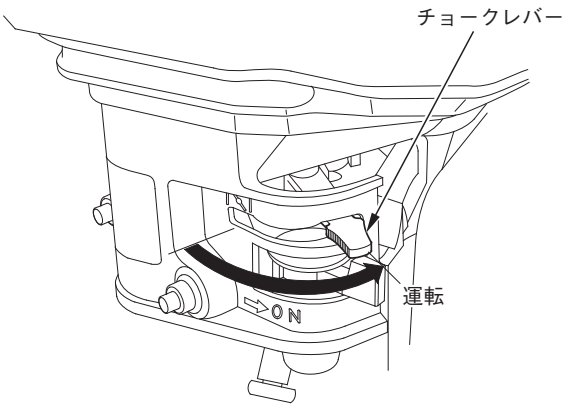
7. エンジンが始動したら、エンジンスイッチキーから手を放してください。エンジンスイッチは、自動的に**“運転”**の位置に戻ります。



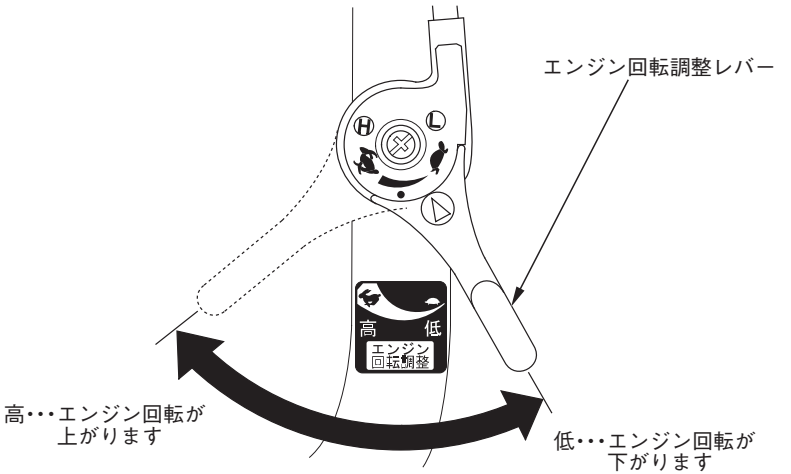
取扱いのポイント

エンジンが始動した後、キーを“始動”の位置にしたままにすると、始動装置を損傷させる原因となります。

8. 2 ～ 3 分間暖機運転を行います。チョークレバーを**“始動”**にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に**“運転”**の方向に戻します。



9. エンジン回転調整レバーを調整して、適切なエンジン回転にします。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

変速

・変速レバー

変速表の適応作業を目安に変速位置を選びます。(43頁参照)
速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上がり等に弊害が出ます。

変速の要領

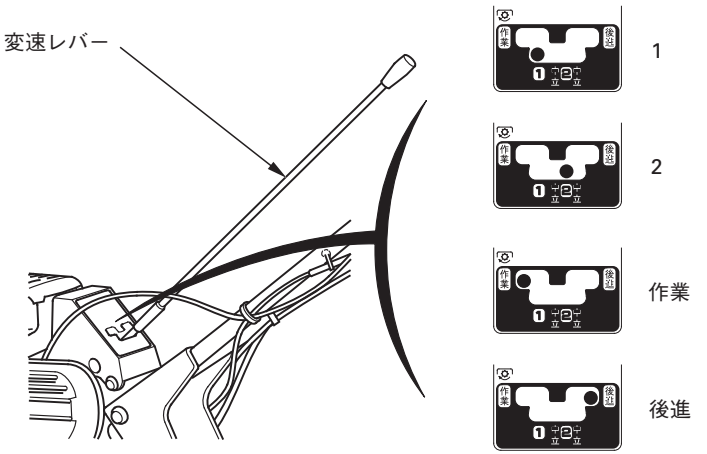
1) 変速レバーは、必ず主クラッチレバーを放してから操作します。
2) 変速レバーが変速しにくいときにはいったん主クラッチレバーを握った後、主クラッチレバーを放してもう一度操作します。
3) 後進の場合、特に足元や後方に十分注意し低速で運転してください。

⚠警告

後進時、ハンドルがはね上りロータリ爪にふれると死傷するおそれがあるので後進するときは次の指示に従ってください。

- 後方に人や障害物がないことを確認してください。
- エンジン回転を下げてください。
- ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
- クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れるようにしてください。

• 変速表



変速表（エンジン回転数3,600 rpmのとき）

変速位置	車速	ロータリ回転数	適応作業
1	0.29 m/sec	－	移動、トラックへの積込み、ほ場への出入
2	1.16 m/sec	－	移動
作業	－	243 rpm	耕うん、培土、除草
後進	0.36 m/sec	－	移動、トラックからの積降ろし、ほ場への出入

※車速はタイヤ外径がø350 mm のときの速度です。

運転

• 主クラッチレバー

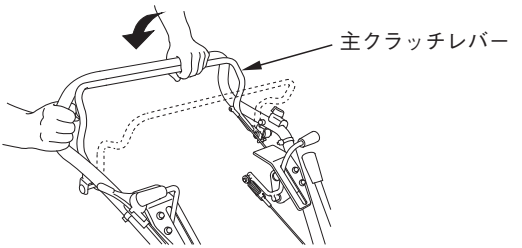
主クラッチレバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

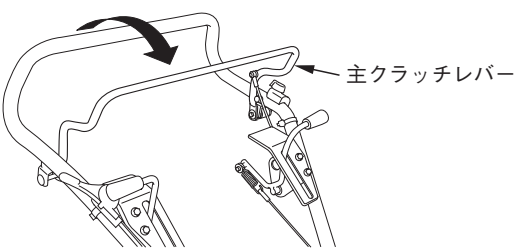
走行

主クラッチレバーを握る→動力が伝わり、本機が走行します。



停止

主クラッチレバーを放す→動力が切れ、本機が停止します。

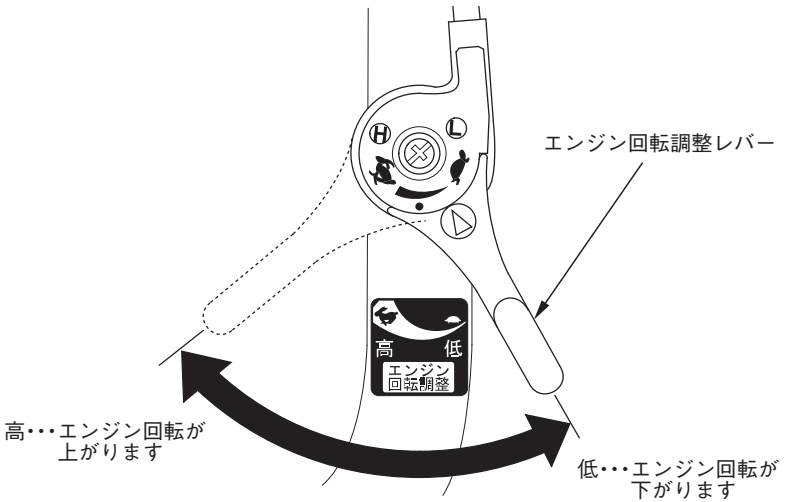


取扱いのポイント

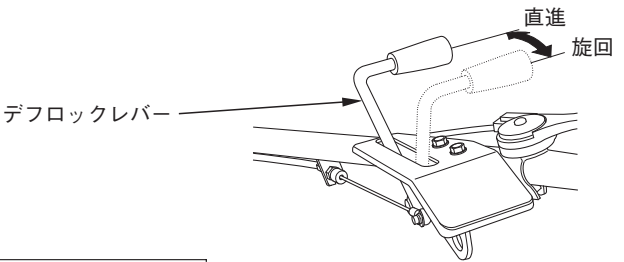
主クラッチレバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

• エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて設定してください。



• デフロックレバー
通常は“旋回”の位置で使用してください。旋回性が向上します。
柔らかく片輪がスリップしやすい畑や、片輪だけが耕した所を通る場合に“直進”にします。直進性が向上します。
レバーの切替えは主クラッチレバーを“切”位置にし、本機が止った状態にしてから行ってください。



取扱いのポイント

- 移動時はデフロックレバーを“旋回”にしてください。
  主クラッチレバーを握ったままでデフロックレバーを操作するとデフロック機構が損傷する場合があります。デフロックレバーは主クラッチレバーを“切”の位置にして操作してください。
- 坂道や傾斜地での走行はデフロックレバーを“直進”の位置で行ってください。

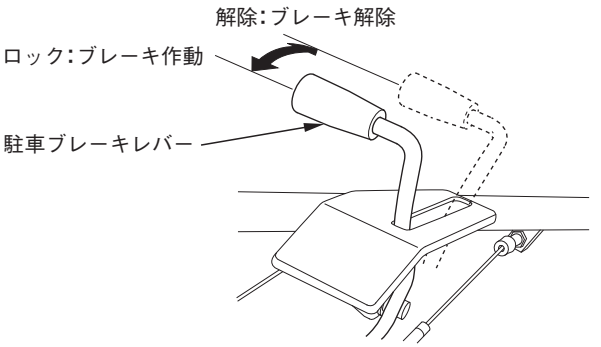
• 旋回（移動時）

⚠警告

- 高速運転時に旋回すると本機が急旋回し、走行が不安定となり傷害事故をおこすおそれがあります。
- 登り坂や下り坂では旋回しないでください。坂道で旋回すると思わぬ方向に急旋回したりし、事故、ケガ、本機の故障をまねくおそれがあります。

デフロックレバーを“旋回”の位置でエンジン回転を下げゆっくり旋回してください。

- 駐車ブレーキレバー
  本機を駐車するときに使用します。
  “ロック”の位置にするとブレーキが効きます。
  “解除”の位置にするとブレーキが解除されます。



⚠警告

駐車ブレーキを“ロック”(ON)したまま走行しないでください。ブレーキが故障する原因となり、事故につながるおそれがあります。

耕うん作業

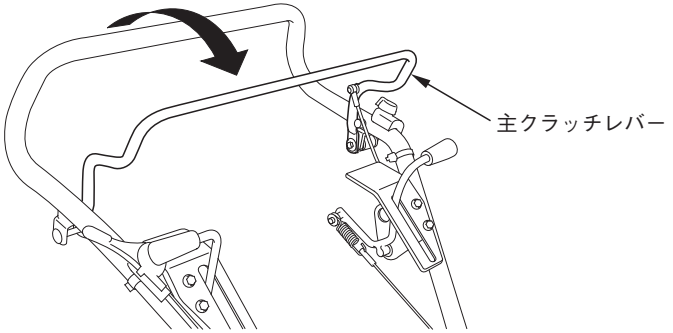
⚠注意

- 一度に深く耕すと本機が急に前に飛び出すことがあります。
- 耕うん中、爪に石などの固い物が当たったりするとハンドルが持ち上がったり、本機が急に前へ飛び出すことがあるので注意してください。
- 本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

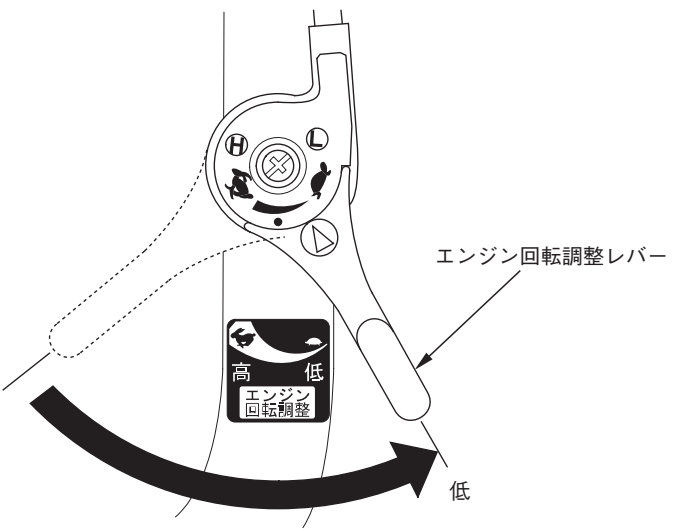
- 硬いほ場での耕うんは、一度に深く耕うんしないで２～３回掛けしてください。無理にハンドルを押しつけないでください。
- 旋回するときは:
  主クラッチレバーを放しエンジン回転を低速にします。デフロックを使用している場合は**“旋回”**位置にしてください。変速レバーを**“１速”**にし主クラッチレバーを握りゆっくり旋回してください。旋回が終了したら一度、主クラッチレバーを放し変速レバーを**“作業”**の位置にし、耕うん作業に戻ってください。

エンジンのとめかた

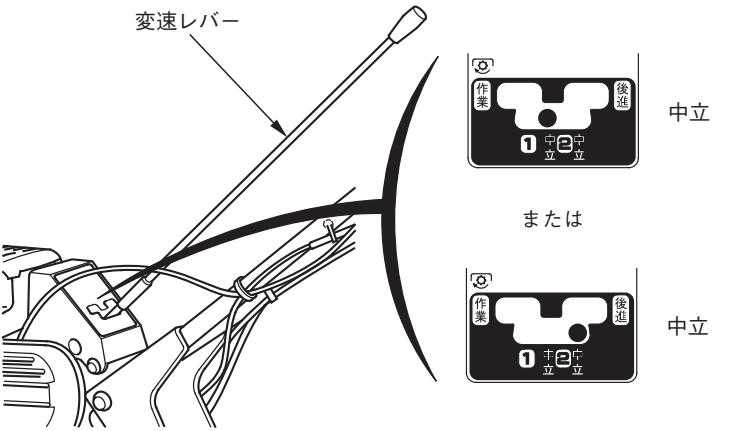
1. 主クラッチレバーを放して**“切”**にします。



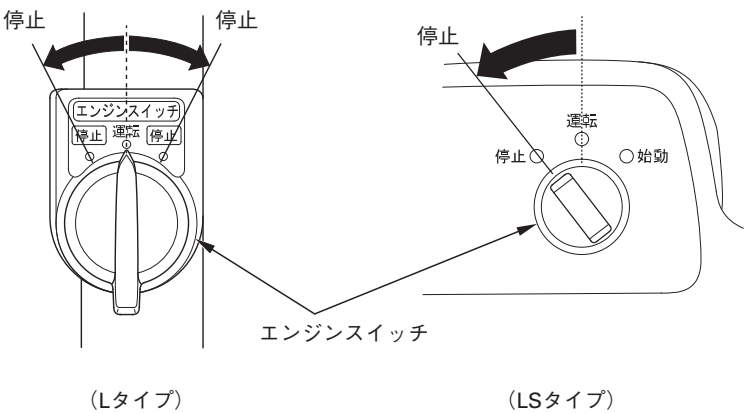
2. エンジン回転調整レバーを**“低”**の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



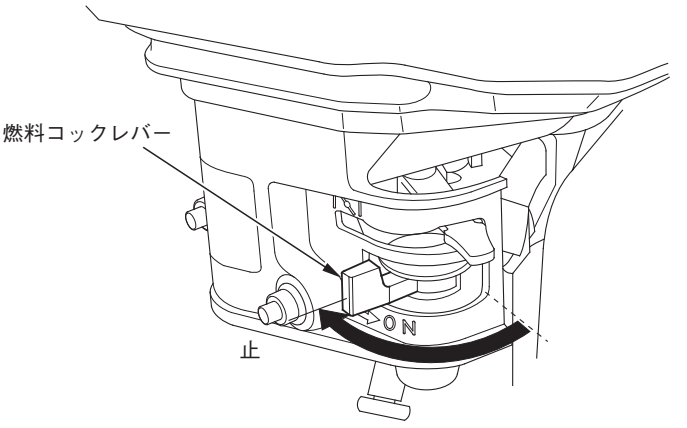
3. 変速レバーを“中立”の位置にします。



4. エンジンスイッチを“停止”に合わせます。



5. 燃料コックレバーを“止”に合わせます。



定期手入れを行いましょう

定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時期(1)		稼働期前	作業前点検	1ケ月目または初回20時間運転目	3ケ月毎または50時間運転毎	6ケ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検－補給		○					24
	交換	○		○		○		53、54
本機周りの点検	点検		○					20
主クラッチレバーの作動	点検		○					31
レバー類の作動	点検		○					20
各部の締付け	点検		○					20
タイヤ空気圧	点検		○					27
エンジンの始動、停止	点検		○					20
変速機オイル	点検－補給	○		○			○	26
	交換	2年毎(3)						－
エアクリーナ	点検		○					25
	清掃				○(2)			55
	交換						○	55
点火プラグ	点検－調整					○		57
	交換						○	57
燃料ろ過カップ	清掃					○		62
アイドル回転	点検－調整						○(3)	－
エンジン回転調整ケーブル	点検－調整						○	59
吸入、排気弁のすき間	点検－調整						○(3)	－
燃焼室	清掃		500時間運転毎(3)(4)					－
デフロックレバーケーブル	点検－調整			○		○		61
主クラッチケーブル	点検－調整			○		○		60
駆動ベルト	点検－調整			○(3)(5)		○(3)(5)		－
駐車ブレーキケーブル	点検－調整						○(3)	－
配線、ケーブル類	点検		○					20
燃料タンク及びフィルタ	清掃	○(3)				○(3)		－
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(3)						－

(1) 点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(2) ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナの清掃は10時間運転毎または１日１回行ってください。
(3) これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、販売店またはサービス店で実施してください。
(4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。
(5) ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていない事を確認し、異常がある場合は交換してください。

点検・整備について

⚠警告

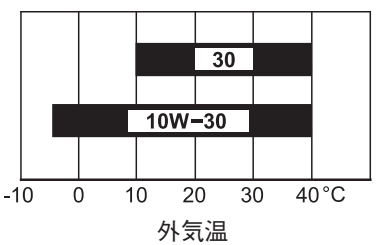
点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを取外して行ってください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》 Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)、またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

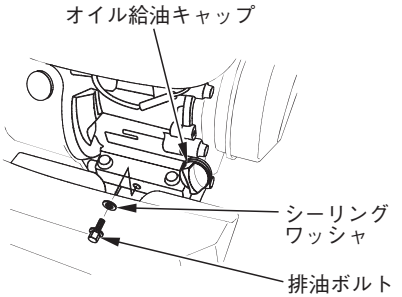
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

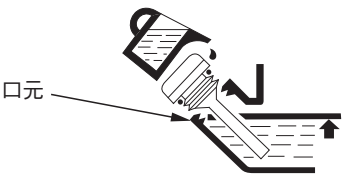


《エンジンオイル量》 0.6 L

《交換のしかた》

1. エンジンを水平(水平の方法は22頁参照)にしてオイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリングワッシャを取付け、シリンダバレルに確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。





⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

エアクリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エアクリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

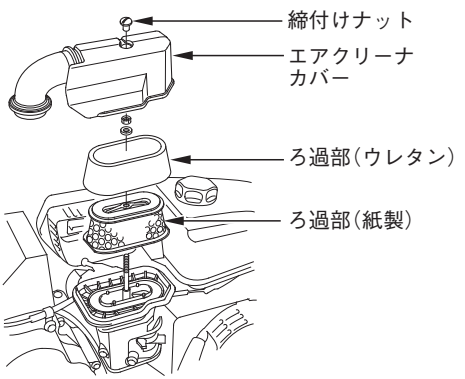
洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

⚠注意

エンジン停止直後は、エンジンアッパカバーが非常に熱くなっています。やけどをしないように、作業はエンジンが冷えてから行ってください。

1. ドライバ等を使ってカバー止めを解除し、エンジンアッパカバーを開きます。
2. 締付けナットを外し、図のようにエアクリーナカバーを外して、ろ過部を取外します。
3. ろ過部(ウレタン)は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。



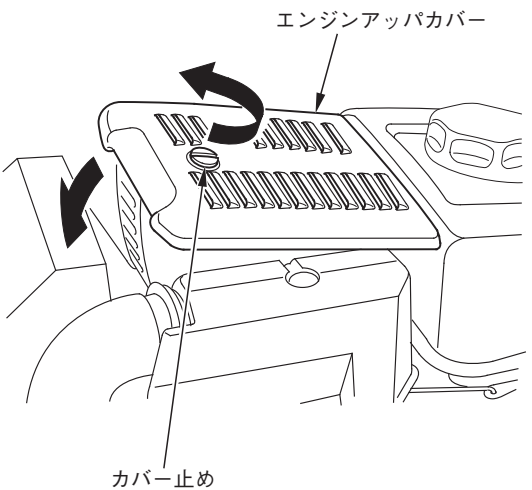


4. ろ過部(紙製)は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
5. ろ過部、エアクリーナカバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

- エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナカバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。
- ろ過部(ウレタン)にオイルをつけすぎないように注意してください。

6. エンジンアッパカバーを閉め、カバー止めを回して**"固定"**します。



点火プラグの点検･調整･交換

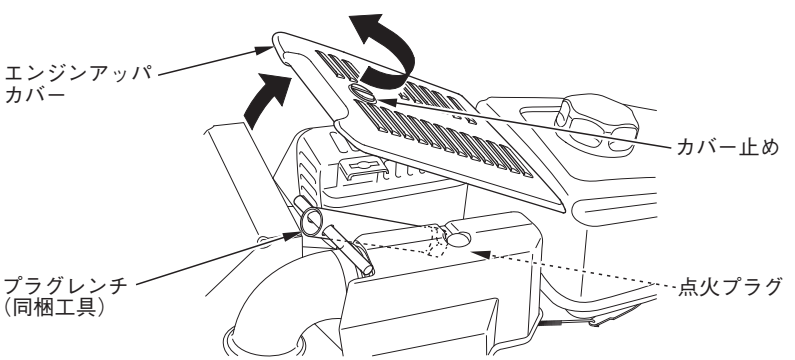
電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

清掃のしかた

1. エンジンを停止します。
2. ドライバ等を使ってカバー止めを解除し、エンジンアッパカバーを開きます。
3. 点火プラグキャップを取外します。
4. プラグレンチで点火プラグを取外します。
5. 点火プラグを点検します。汚れている場合は清掃してください。
   点火プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落としてください。



調整のしかた

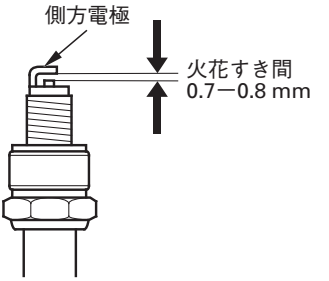
6. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.7－0.8 mm

《標準プラグ》

BP5ES (NGK)

W16EP-U (DENSO)



取扱いのポイント

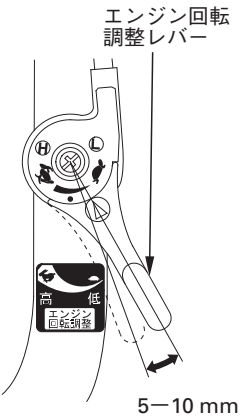
- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

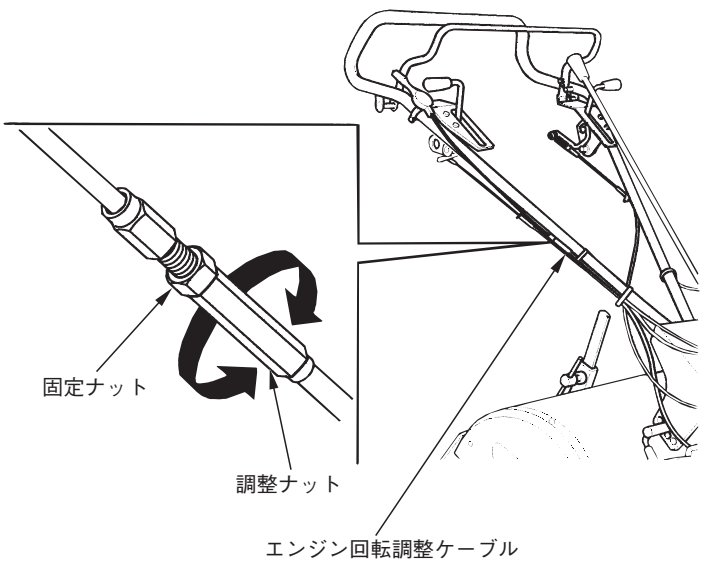
エンジン回転調整ケーブルの調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

調整のしかた

1. エンジン回転調整レバーを**“低”**の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：5－10 mm
   - 点検、調整はハンドル高さが下から2段目で行ってください。
2. 調整は、固定ナットをゆるめて調整ナットを回して行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



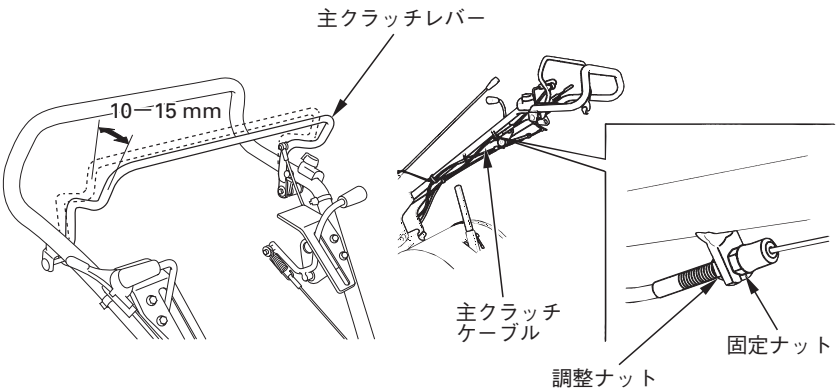


主クラッチケーブルの調整

主クラッチケーブルの調整が完全でないと、主クラッチの切れが悪くなったり駆動ベルトがすべったりします。

《調整》

1. 主クラッチレバーを“切”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：10－15 mm
   調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットを回して行います。
   • 点検、調整はハンドル高さが下から 2 段目で行ってください。



2. 調整後は固定ナットを確実に締付けてください。また、主クラッチレバーを数回“入”“切”し、再度遊びを確認してください。

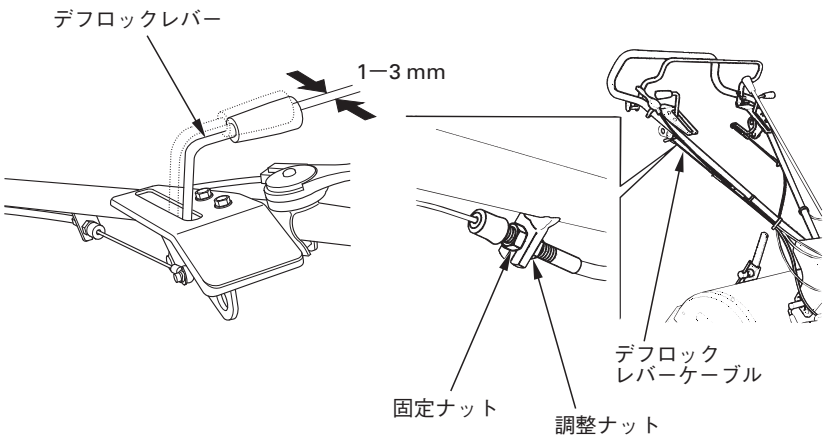
デフロックレバーケーブルの調整

デフロックレバーケーブルの調整が完全でないと、デフの切替えができなくなることがあります。

《調整》

1. デフロックレバーの遊びが、先端で下記寸法になるように調整します。
   遊び：1－3 mm

2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行います。
   - 点検、調整はハンドル高さが下から 2 段目で行ってください。



3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

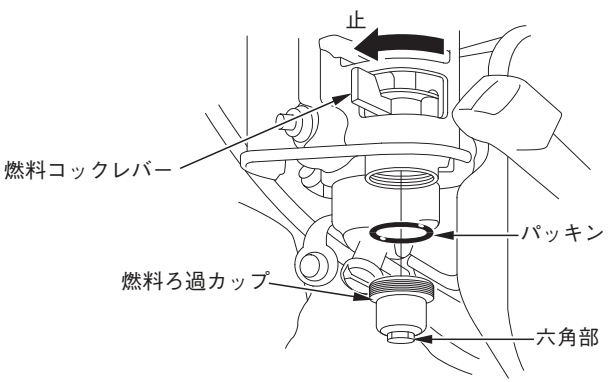
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 燃料ろ過カップの取付け後、漏れがないか点検してください。
- ガソリンが周りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしてからエンジンを始動してください。

《清掃のしかた》

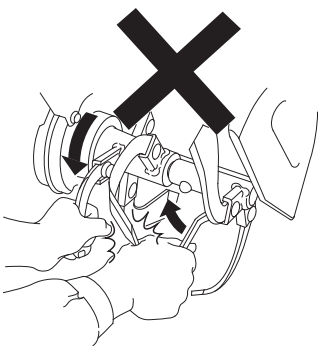
1. 燃料コックレバーを“止”にします。
2. 六角部を回してゆるめ燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、パッキンを元通りに取付け、燃料ろ過カップを取付けます。
5. 燃料ろ過カップは、六角部を回して確実に締付けてください。
6. 燃料コックレバーを“出”にし燃料の漏れのないことを確認します。



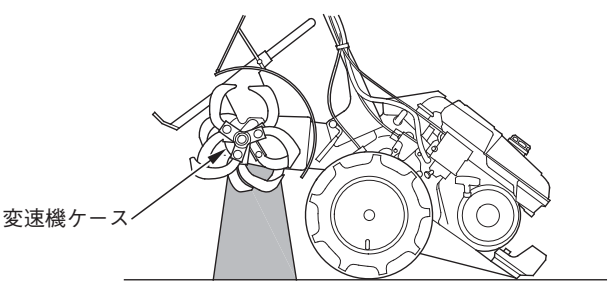
ロータリ爪の点検･交換

⚠注意

- 点検、交換は平坦な場所でエンジンを止め、プラグキャップを外してから行ってください。
- 手にケガをしないよう厚手の手袋を着用してください。
- 万一の落下にそなえて、ロータリ爪軸の下に木の台などを置いてください。
- このロータリは、内側と外側の爪が逆回転します。ロータリ爪の点検や交換をする場合は爪の動きに十分注意してください。ロータリ爪が思わぬ方向に回転しケガをするおそれがあります。
- カバー類を外したときは、元通りに取付けてください。



- 点検、交換の前にフロントウエイトが地面に接するまで本機を前傾させ中央の変速機ケースの下に台を置くなどして本機を固定します。

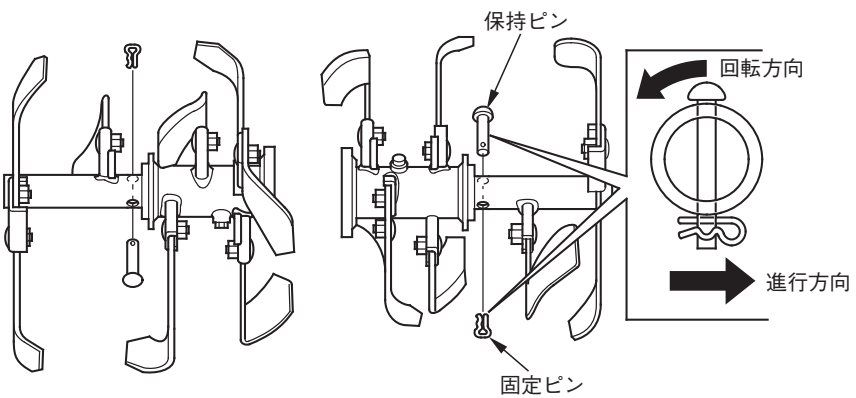


点検

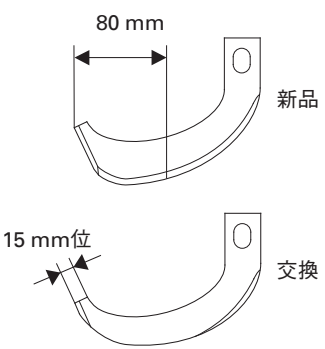
1. ロータリ爪の損傷、曲がり、ガタがないか点検してください。もし異常があったときは締付け、または交換してください。
2. ロータリ爪軸の保持ピンに脱落、変形がないか点検してください。必要であれば新しい保持ピンと固定ピンを取付けてください。

取扱いのポイント

- ロータリ爪はHonda純正部品を使用してください。
- ピン抜け防止のためロータリ回転方向と逆方向から固定ピンを差し込んでください。

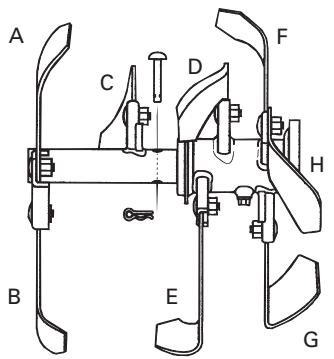


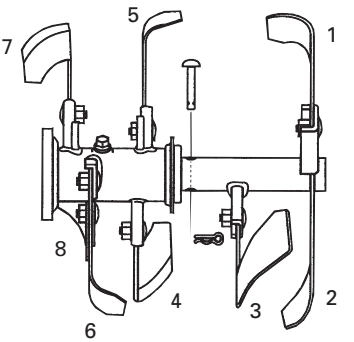
3. ロータリ爪先端から80 mmの範囲内で、ロータリ爪巾が摩耗により15 mm以下になったら、ロータリ爪を交換してください。
   - 効率の良い耕うん作業の為に、ロータリ爪は早めにお取替えください。



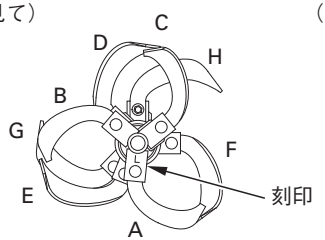
ロータリ爪の取付け

- ロータリ爪の配列は、下記のようにしてください。配列を変えたり向きを変えると振動の原因となり正常な耕うんができなくなります。
- 進行方向に向かって右側　1、2、7、8、左側　A、B、G、Hは内向きに取付け、右側　3、4、5、6、左側　C、D、E、Fは外向きに取付けます。右側　4、5、6、7、8、左側　D、E、F、G、Hには長い爪が付きます。

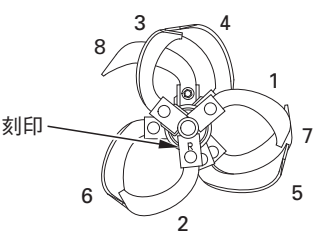


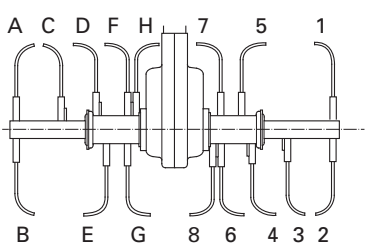


左爪セット
（左横から見て）

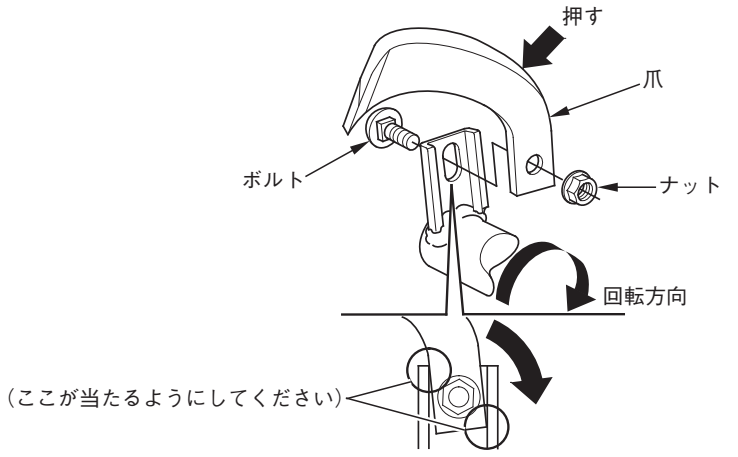


右爪セット
（右横から見て）





- ロータリ爪をロータリの回転方向と逆方向に押しながら、ナットを確実に締付けてください。

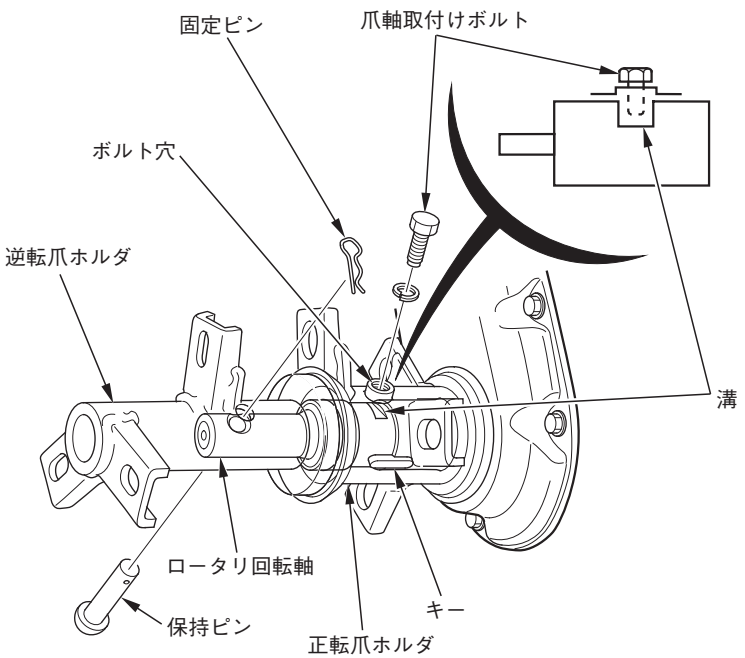


ロータリ爪をホルダごと取付ける場合は、合わせ位置があり組み違えると振動の原因となります。爪ホルダにはそれぞれRとLの刻印が打ってあります。進行方向に向かって右側にはR、左側にはLを組付けてください。（刻印は２、４、A、Dの根元付近にあります。65頁参照）

組付け手順は下記の通りに行ってください。

1. 正転爪ホルダをキーに合わせてロータリ回転軸に入れ、次に逆転爪ホルダを入れます。
2. 逆転爪ホルダの穴に保持ピンを差込み、固定ピンで固定します。
3. 正転爪ホルダの爪軸取付けボルト穴から見て、穴と溝が合う位置まで爪ホルダを動かし爪軸取付けボルトを締付けて固定します。

- 正転爪ホルダを左右方向に動かしガタがあることを確認してください。溝に爪軸取付けボルトが入っていない場合は、ガタはありません。ガタが無い場合は軸取付けボルトをゆるめ組みなおしてください。



ヒューズの交換（LSタイプ）

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

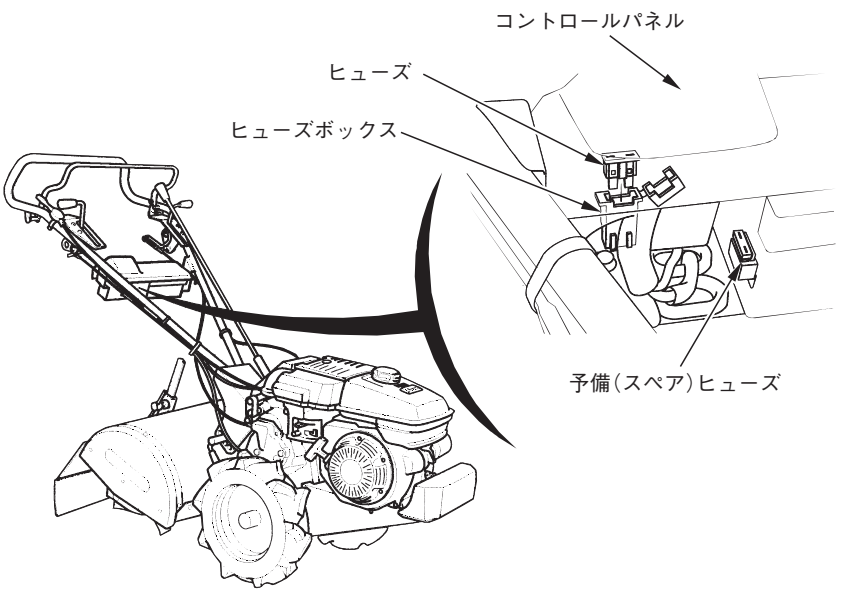
取扱いのポイント

指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

交換のしかた

ヒューズボックスのヒューズを外し、予備（スペア）ヒューズを取付けます。

指定ヒューズ：1A



長期間使用しないときの手入れ

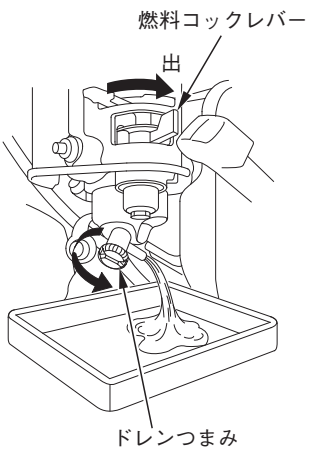
長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから取外します。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

1. 燃料タンク、キャブレータ内の燃料を下記の要領で抜きます。

《抜きかた》
1) 燃料コックレバーを“出”にします。
2) キャブレータのドレンつまみ(燃料排出用つまみ)を1～2回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内の燃料を抜きます。燃料は適切な容器で受けてください。



3) 完全に燃料が抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
4) 燃料コックレバーを“止”にします。

2. エアクリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は55頁参照)
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジンバルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。)

取扱いのポイント

- 次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- 本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。

バッテリの補充電（LSタイプ）

保管時は、バッテリの㊀端子を外しておいてください。
長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので、補充電を行ってください。保管中６ヶ月に一度およびシーズンの初めと終わりにバッテリを外して12Ｖ用充電器を使用し、補充電を行ってください。別売の12Ｖ用充電器はお買いあげ販売店へお申しつけください。

この機種には密閉型のメンテナンスフリーバッテリが装備されており、バッテリ液の点検、補給は不要です。従って液口キャップは絶対に外さないでください。

バッテリ型式：YTZ7S

⚠警告

- バッテリを取扱うときはショートによる火花に注意してください。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は㊉側から接続し、外すときは㊀側から外し、付属のチューブを端子に取付け、保管してください。工具の接触などでショートする場合があります。

補充電のしかた

バッテリを本機から取外して、充電を行ってください。（74頁参照）

充電時間：0.6Ａで5～10時間

- 端子のゆるみ、腐食は接触不良の原因となります。ゆるんでいる時は確実に締付けてください。端子に白い粉がついている場合は、お湯で清掃し、グリースを塗布してください。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?（32～41頁参照）
2. ガソリンはありますか?（21～23頁参照）
3. エンジンオイルは注入口、口元までありますか?（24頁参照）
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか?（57、58頁参照）

- 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

主クラッチ、デフロックが作動しないときは次の点を確かめましょう

5. 主クラッチケーブル、デフロックレバーケーブルの調整方法が取扱説明書通りですか?（60、61 頁参照）
6. 駐車ブレーキレバーが**“ロック”**位置になっていませんか?

少し時間をおいてもう一度確めましょう

主要諸元

名称		FU755	
型式		ホンダFU755	
区分		L	LS
機体寸法	全長	1,480 mm	
	全幅	660 mm	
	全高	1,025 mm	
	輪距	410 mm	
装備質量[重量]		100 kg	106 kg
エンジン	名称	GX200	
	形式	空冷4ストローク単気筒エンジン(OHV)	
	総排気量	196 cm^3	
	連続定格出力／回転速度	3.7 kW (5.0 PS)/3,600 rpm	
	最大出力／回転速度 (SAE J1349に準拠＊)	4.1 kW (5.6 PS)/3,600 rpm	
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量	2.4 L	
	点火方式	トランジスタ式マグネト点火	
	始動方式	リコイルスタータ	セルフスタータ リコイルスタータ
タイヤ		3.50－7－2PR	
主クラッチ方式		ベルトテンション	
変速段数		前進 2段、後進 1段、耕うん 1段	
ロータリ	駆動方式	センタドライブ	
	耕幅	600 mm	

＊：ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600 rpm(エンジン最大出力)で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

※諸元は予告なく変更することがあります。
全長および全高は、ハンドル高さが下から2段目のときの数値です。

バッテリの接続（LSタイプ）

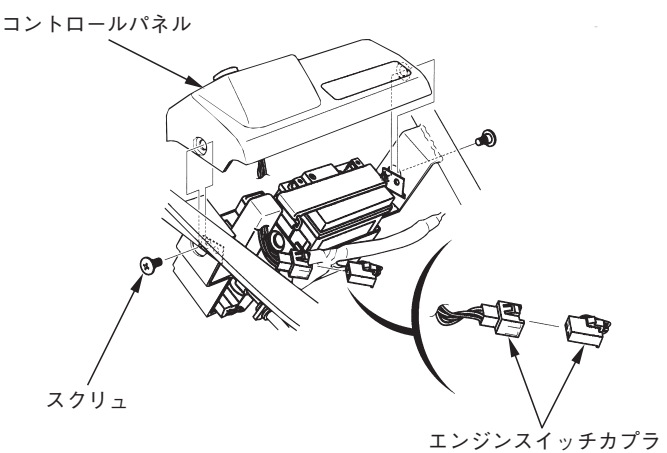
バッテリは本機に搭載されています。以下の手順で本機のバッテリケーブルをバッテリに接続してください。

- バッテリ接続前にバッテリの電圧を測定し、電圧が12.4 V未満の場合は、補充電を行ってください。（71頁参照）
- バッテリを接続していない状態で、エンジンを始動しないでください。

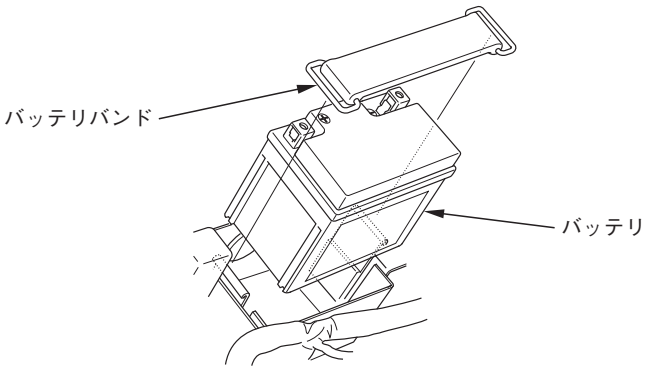
⚠警告

- バッテリを取扱うときはショートによる火花に注意してください。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖側から外し、付属のチューブを端子に取付け、保管してください。工具の接触などでショートする場合があります。

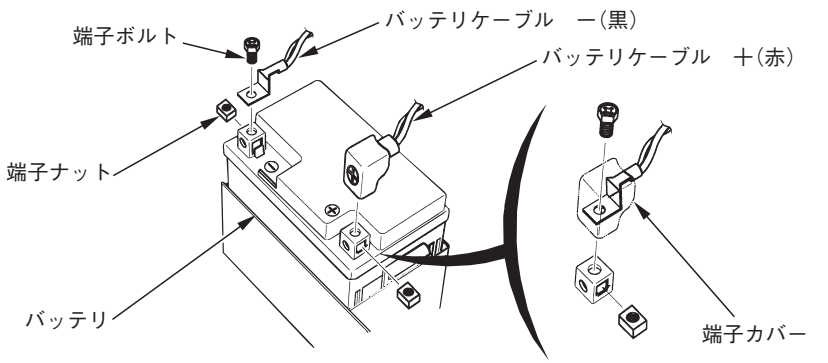
1. エンジンスイッチを**“停止”**の位置にし、エンジンスイッチキーを取外します。
2. コントロールパネル下のエンジンスイッチカプラの接続を外します。
3. スクリュを外し、コントロールパネルを取外します。



4. バッテリバンドを外し、バッテリを本機から取外します。



5. バッテリに付属の端子ボルト、端子ナットをバッテリから外します。
6. バッテリを本機に取付け、バッテリバンドで固定します。
7. バッテリ⊕端子の保護カバーを外し、端子ナットを取付けます。本機の⊕側バッテリケーブルを端子ボルトで接続します。
   - バッテリケーブルの端子カバーを⊕側端子に確実にかぶせてください。
8. バッテリ⊖端子に端子ナットを取付けます。本機の⊖側バッテリケーブルを端子ボルトで接続します。
9. コントロールパネルを取付け、エンジンスイッチカプラを接続します。



メ　モ

Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買いあげいただいた販売店へお申しつけください。

HONDA

The Power of Dreams

30777630
00X30-777-6300

Ⓢ Ⓨ HC 600.2012.03
© 2012 本田技研工業株式会社